

資格取得を希望する学生の意識調査

竹上 健^{*1}, 堀 恵子^{*2}

＜概要＞文教大学職業ライセンスセンターは、湘南校舎の在校生を対象に資格取得の支援を行っている。平成8年5月から実施されたワープロ技能検定4級講座の受講生に対して行った資格取得に対する意識調査の結果を報告するとともに、大学と同一キャンパス内で資格取得支援を行う部門として今後の課題についての検討も行った。

＜キーワード＞教育情報一般、意識調査、情報リテラシー教育、生涯学習

1. はじめに

文教大学では、湘南校舎の学生を対象に、資格取得を推進させる一環として、平成7年9月から「職業ライセンスセンター」を発足させ、学内ダブルスクールとして、就職などに役立つと思われる資格取得の対策講座をスタートさせてきた。

一般的な資格取得のためのスクールと違い、大学と同一キャンパス内という立地条件を活用できるように、単に効果的な資格取得指導を検討するだけでなく、①学部授業とのタイアップ ②就職先の要求を考慮したプログラム編成 ③受講学生の追跡指導などを織り込んで、最終的には生涯教育の場へと発展できるよう模索をはじめた。

今年度は、上記模索の第一段階として、ワープロ技能検定4級講座の受講生に対して行った、資格取得に関する現状把握と目的などの意識調査の結果を報告する。

2. アンケート対象学生

アンケートは、平成8年6月8日（土）に学内で実施された、日本商工会議所のワープロ技能4級検定試験の対策講座の受講申込者

166名に対して行ない、1名を除く165名から回答が得られた。

回答した学生の所属や学年について表1に示す。全体の約7割が短期大学生で、残り約3割が情報学部、国際学部の学生であった。情報学部は広報、経営情報、情報システムの3つの学科があるが、受講生が少ないためその内訳は記していない。また、男子6名女子159名と圧倒的に女子の数が多かった。

3. 意識調査の結果

3-1. ワープロ検定の資格取得の目的

ワープロ検定資格取得の目的について問い合わせた結果を表2に示す。

表2 ワープロ資格取得の目的

ワープロ資格取得目的	人数	比率
就職のため	134	81%
実務レベルの技術を習得	45	27%
情報処理の第一段階	31	19%
学生時代の成果づくり	30	18%
友達が受けるから	7	4%
親がすすめるから	22	13%
無回答	3	2%

複合回答であるため、合計値は100%を越えている。

表1 アンケート学生の内訳

	1年	2年	3年	4年	合計	比率
短期大学	文芸科	20	3		23	14%
	英語英文科	37	4		41	25%
	栄養科	14	7		21	13%
	家政科	27	4		31	19%
71%						
情報学部	2	3	14	0	19	11%
国際学部	7	11	10	2	30	18%
29%						
合計	107	32	24	2	165	100%
比率	65%	19%	15%	1%	100%	

明らかに、資格取得は就職を意識したものであり、今回のワープロ技能検定でも5人に4人が就職のためと回答している。これは、表1のアンケート学生の内訳の値から、翌年度に就職を控えている学生（短期大学1年生98名、大学3年生24名の合計122名）の受講比率を計算すると74%になることから同様の傾向がうかがえる。

ついで実務レベルの技術を習得したいとの目的を持ったものが多い。アンケートの中で

*1 TAKEGAMI Takeshi: 文教大学職業ライセンスセンター e-mail=takegami@shonan.bunkyo.ac.jp

*2 HORI Keiko: 文教大学経営情報専門学校

さらに、「大学の授業では実務レベルの技術は習得できないか」と質問したところ、6名の学生は「できる」と答えているが、5倍近い29名の学生が「できない」と答えている。また、できない理由として、1年次の半期だけだったので忘れてしまったとか、週に1回では技術が身につかない、といった指摘がみられた。

情報処理の第一段階としてワープロ技能を考えた者が19%いた。また、学生時代の成果づくりとして考えている者もほぼ同数の18%いた。単に大学を卒業するだけでなく、成果の一つとして、何らかの資格を持って卒業したいと考える学生が少なくない事がわかる。

友達が受けるから、という理由で資格を取ろうとする者はさすがに少ないが、親のすすめで受講を考えた者が22%いた。また、親のすすめた理由のほとんどが就職対策のためであった。

3-2. 取得を希望している資格

ワープロ技能検定以外に今後取得を希望している資格について問い合わせた結果を表3に示す。

表3 取得希望の資格

資格名	人数	比率
情報処理技術者試験	8	5%
パソコン認定試験	44	27%
表計算処理技能認定	9	5%
英検(英語関連資格を含む)	86	52%
簿記検定	24	15%
秘書検定	57	35%
漢字検定	29	18%
その他(旅行業務主任など)	8	5%
ワープロ検定以外考えない	12	7%
無回答	9	5%

複合回答であるため、合計値は100%を越えている。

希望者の多い資格は、英語検定、秘書検定、パソコン認定試験、漢字検定、簿記検定の順になっていた。

英語検定は圧倒的に人気の資格で、半数の学生が取得を希望している。また希望している学生の4人中3人(64名、74%)はすでに英語検定の資格取得済みで、さらに上位の資格取得を希望している。

今回の調査はほとんどが女子学生であった

ためか、2番目は秘書検定となっている。また、3番目は情報処理関連のパーソナルコンピュータ利用技術認定試験(通称:パソコン認定試験)であった。パソコン認定試験は筆記のみの試験で、特に4級はプログラミングの知識が要求されない。ワープロ技能で実技の基本操作ができるようになれば、次に情報関連の一般知識も得ておこうという傾向がうかがえる。

3-3. 学内講習会受講の基準

学内で検定試験対策の講習会が開催される場合、受講の判断基準となるものについて問い合わせた結果を表4に示す。

表4 学内講習会受講の基準

参加の基準	人数	比率
実技試験のものだけ受講	36	22%
文教が会場のものだけ受講	35	21%
ワープロ検定以外受講せず	24	15%
講習会の内容で判断	52	35%
無回答	22	13%

複合回答であるため、合計値は100%を越えている。

「実技試験のものだけ」と「ワープロ検定以外受講しない」をたしあわせて考えると、約37%の学生が講習会の内容に関わらず、実技が科せられる検定試験においては対策講習会の受講を考えていることがわかる。また、自分の母校が試験会場かどうかということ意識する学生も多いことがうかがえる。

講習会の内容で判断すると回答した場合にはさらに希望条件についても問い合わせた。回答結果を表4-1に示す。希望する意見にはかなりのばらつきがあり、傾向をまとめることが出来なかったが、講習会を土日に設定するのだけは困るという意見は共通したものであった。

表4-1 講習会内容の条件

費用	・無料、安いほど良い ・1万円くらいまではOK
時期	・授業期間中がいい ・休み期間中に集中させる
期間	・最長でも1か月間 ・2～3ヶ月間じっくりと
時間帯	・平日5限目を使わないで ・平日5限目を使って
共通意見: 土日に設定するのは困る	

各項目とも両極端の意見の示している。

4. 実状把握

4-1. 取得済み資格

意識調査とあわせて、すでにどのような資格を取得しているのかも調査した。取得済み資格についての回答結果を表5に示す。

表5 ワープロ・パソコン所持状況

取得資格		人数	比率
英語関連	英語検定 2級	3	2%
	準2級	18	11%
	3級	66	40%
	4級・5級	11	7%
	国連英検C級・D級	2	1%
簿記検定3級・4級		2	1%
秘書検定2級・3級		6	4%
漢字検定2級・3級		14	8%
その他(珠算・書道など)		25	15%
取得資格無し		35	21%

複合回答であるため、合計値は100%を越えている。

ワープロ技能講座に申し込んだ学生のうち5人中4人は何らかの資格を持っていたことになり、また3人は英語検定資格を持っていたことになる。資格を取得している学生がさらに資格取得を希望していることがわかる。

取得の時期やきっかけもあわせて質問していたが、英語検定に関しては、中学時代からチャレンジを開始しており、きっかけとしては塾で強制的に受けさせられたとか、高校が会場校であったからという理由が圧倒的であった。いずれにしても英語検定は、大学になると6割程度の学生が受験経験を持つために、講座に頼らなくても自分で受験対策が出来る状況にあると判断される。このことは、ライセンスセンターが開設されてから英検2級の対策講座が3回企画されたが、いずれも応募者は10名程度であったという状況からも裏付けられる。

4-2. ワープロ・パソコンの所持状況

ワープロやパソコンの所持状況についても調査を行った。所持状況についての回答結果を表6に示す。

おおざっぱな言い方をすれば、学生が4人いれば、そのうち1人は何も所持していないが、2人はワープロ、1人はパソコンを所持している、ということになる。また、5人に1人は自分専用のワープロを持ち、10人に1

人の割で家庭にワープロもパソコンもあることになる。

表6 ワープロ・パソコン所持状況

ワープロ・パソコン所持		人数	比率
ワープロがある	専用	34	21%
	兼用	58	35%
パソコンがある	専用	6	4%
	兼用	42	25%
両方ある(内数)		18	11%
何もない		43	26%

ワープロ技能の講座に申し込んだ学生を対象としているので、機材が利用されていないことは当然予測されるが、事実そのほとんどが使われておらず、使われていてもゲームや遊びが主で、ほかに年に1回の年賀状作成に利用されている程度であった。

5. まとめ

ワープロ技能4級検定の対策講座の応募者165名から得られたアンケート結果から、次のようにまとめることができる。

- ①ワープロ技能の資格取得の目的は就職を意識したものである。
- ②実務レベルの技術習得を目的とした者も多く、大学の学部授業では実務レベルの習得は難しいとの指摘もあった。
- ③ワープロ技能検定以外に、英語検定、秘書検定、パソコン認定試験、漢字検定、簿記検定の順に資格取得を希望している。
- ④講座受講に関しては、実技試験を伴う検定試験の対策講座を希望する傾向があり、母校が会場となる検定試験にも興味を持つと判断される。また、授業期間、休み期間を問わず土日の講習会を嫌う傾向がある。
- ⑤ワープロ技能検定対策講座受講生の8割が何らかの資格を持ち、6割が英語関連の検定資格をすでに取得していた。文教大学において、英検2級講座に応募者が少ないのは当然だと判断される。
- ⑥4人のうち1人がパソコンを、また2人がワープロを所持しているが、ほとんど使われていない。使われていてもゲームや年1回の年賀状作成程度であった。

6. 今後の展開

6-1. 学部授業とのタイアップ

実務レベルの技術習得は学部授業では難しいので講座を受講したとの指摘があった。また、資格取得のために、学部授業とは別に時間をさいて講座を受講するのではなく、効率化を考える意味でも、学部授業と資格取得のための授業との相乗りなどを考慮していく必要があるのではないだろうか。

6-2. 就職先の要求を考慮

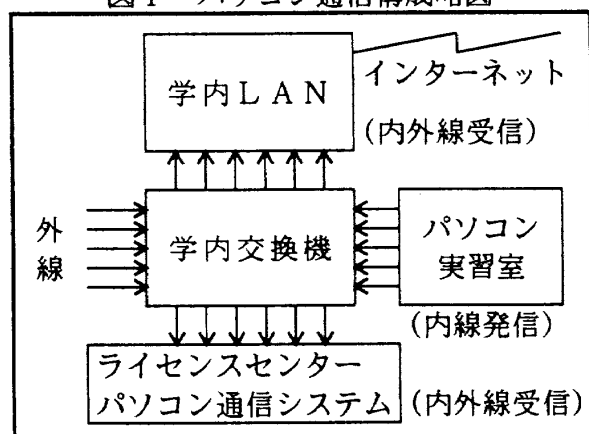
今回の意識調査でも、ただ漠然とワープロ技術は就職先で必要だからと判断している学生が少なくない。今後、就職先の企業がどのような学生を希望しているのかをアンケート調査する予定であり、現在アンケート項目とアンケート依頼先を検討中である。

6-3. 受講学生の追跡指導

今回の調査の中で、週1回や1年次の授業では実務レベルの技術は身につかないと指摘する学生がいた。パソコンなどのキー操作に慣れるためには頻繁に操作することが不可欠であるが、授業や講習会が終わればきめん触ることすらしなくなる。授業内容そのものを論じる前に、常にパソコンを操作しようとする環境があれば、自ら練習することになり、操作法を忘れることもないと考えられる。

また、文教大学教育研究所ではパソコン通信による教員の相互研修の可能性を検討しており、卒業後に母校と情報交換や相互研修を行う場として、パソコン通信が利用できることを指摘している。

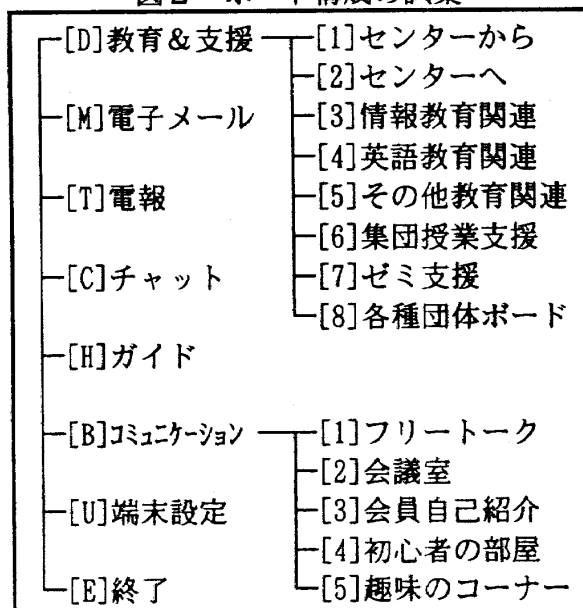
図1 パソコン通信構成略図



現在、ライセンスセンターでは独自に小規模ながらパソコン通信システムを構築して、学生にパソコン操作の練習とコミュニケーションの場の提供を検討している。準備中のパ

ソコン通信システムの構成略図を図1に、ボード構成の試案を図2に示す。

図2 ボード構成の試案



学内には、専用の交換機が設置されたパソコン実習室があり、そこでワープロ講座で基本操作ができるようになった学生を対象に、パソコン通信の指導を行う予定である。

初心者が誤操作などを恐れることなく気軽に書き込みができるように「初心者部屋」を設け、話題が豊富になるように「趣味のコーナー」などの設置も考慮している。また、ある程度慣れた者には、同様の操作で学内LANを経由してインターネットメールを送受信する事も可能となっている。

学内でのパソコン通信を習得すれば次は自宅からの通信を指導する。4人に1人の割合でパソコンを所持しているのだから、ある程度の数は期待できだろうし、家庭からアクセスできるようになれば、卒業後も大学と情報交換ができることになる。

このように在学中からネットワークアクセスを指導することで、生涯学習への可能性も出てくるのではないだろうか。

参考文献

- ・ 竹上健：文教大学におけるコミュニケーションシステムの構築、第5回私情協大会資料（私立大学等情報処理教育連絡協議会）、23-24、1991
- ・ 小林勝法・竹上健ほか3名：パソコン通信による現職教員の相互研修の可能性、文教大学教育研究所紀要第3号、60-69、1994
- ・ 竹上健：ローカルネットワークの構築と運営、国際電子ネットワーク教育学会誌（MagAGENE）Vol.8、40-42、1994